



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和 4 年 1 月 19 日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ トミヤマタスケイタイ
団体名 とみやま助け合い隊
所在地
連絡先
フリガナ
代表者

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	とみやま助け合い隊
事業実施小学校区・地区	富山
事業実施回数	新規 ・ <u>継続</u> 4回目 / 【 令和 1 年度から】
課 題	1. 地域の実情 ・当学区は、高齢化率が31.9%（令和3年1.1月末）と近隣他地区に比して高く、高齢者の一人暮らし、高齢者のみ世帯も増えている。 ・公共交通機関はバスのみで、東西に通じる県道（西大寺線）を走る。スーパーマーケットは、いずれも県道沿いに立地している。 - 住宅地域は県道を挟んで広く南北にも広がっている。 - 地域内に総合病院はなく、住民は市・中心部の総合病院を利用するケースが多い。 - つまり、県道沿いの住民は通院や買い物にたやすくバスを利用できるが、県道から南北に離れた地域に住む高齢者や障害者にとって、バス停まで歩くのはきつい。 - 結果的に、地区住民の日常生活は車への依存度が高く、高齢等により免許を返納すれば、不便度が一挙に上がる。 ★アンケート：「他地区への移住を考えている理由」として交通の不便を挙げる者が多い。 ・住宅は戸建てが圧倒的に多く、日常的に草取りなどのメンテナンスが欠かせない。 - 高齢化等による体力・運動能力の低下は、自宅の管理にも支障をきたす。 ・若年世帯にあっては共稼ぎが当たり前だが、家事や子育てに老親の世話が重なると勤務にも支障をきたす。 2. 課題、 住民は世代を問わず、日常生活上の困りごとを抱えている。困りごとを、いかに解決するか。地域社会を維持・発展させる上において、この問題は放置できない。 3. 事業実施の必要性 「高齢者に限らず住民がいつまでも住み慣れたこのまちで住み続けられる」ためには、日常生活上の困りごと解決を支援する（通院や買い物時の付添、庭の草取りなど）システムの提供が不可欠である。

事業の目的	本事業の目的は、住民が抱えている種々の困りごとと解決を支援することである。 これにより、「住み慣れたこの富山でいつまでも住み続けたい」「富山に住んでいて、よかった」と誰もが考えるようなまちづくりを目指したい。
事業の内容・感染防止対策の内容	地域住民の日常生活上の困りごとと解決のための支援システムを提供する。 1. 本システムの概要 <pre> graph TD A[困りごと支援・依頼者] -- ① --> B[コーディネーター] B -- ② --> C[サポーター (事前登録済み)] C -- ③ --> A A -- ④ --> C C -- ⑤ --> B </pre> (説明) ① 困りごと支援・依頼者 → コーディネーターにTEL ② コーディネーター (5名。週単位で交代) → サポーターを斡旋 ③ サポーター (12月末、47名が登録) → 支援を実施 ④ 依頼者 → サポート料を支払う ⑤ サポーター → 支援の終了時に、支援内容・時間・料金等を報告 ★ 特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業は対象外 ★ 有料・・・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加 (一人につき) ★ 屋内作業・・・原則2人体制で行う。 2. 感染防止対策の内容・方法など ・サポーターに対して、支援に際しての体温測定・マスク着用の厳守を呼び掛けている。 ・室内作業を伴う支援や新規の付添(買い物、通院など)については、適宜、自粛している ・理事会、サポーター会議、コーディネーター会議では検温を実施、マスク着用を義務付けている
期待される成果・目標	期待される成果 1. 自助・共助の意識を高揚し、住民自らがまちづくりに参加する。 自助を基本としつつも限界を超えた部分(困りごと)については、地域住民が支援する。 (住民は、お礼などに気を使うことなく、支援を依頼できる) この積み重ねが、よいまちを作る。 サポーターのみならず、支援依頼者もまちづくりへの参加者である。 2. やさしさと素直さが表面に出る。 本来、人は「やさしさ」と「素直さ」を併せ持つ。他人の困りごとをサポートすることは、「やさしさ」の表現であり、サポートに対し「感謝」するのは「素直さ」の表現である。 住民の持つ「やさしさ」と「素直さ」のコラボが随所に見られるまち「富山」を目指したい。 目標 (令和4年度) ・利用件数 → 330件 (12月末実績 284件 → +46件) ・サポーター登録 → 55名 (12月末登録47名 → +8名) サポーター空白地域の解消に注力する。 ・財政基盤強化 → 民間助成金を活用する。 「クラウドファンディング」はできないか。

企画などの工夫	1. 毎月（原則）、コーディネーター会議を開催、本システムの利用状況や課題について、コーディネーター間で共通認識を持つと同時に、改善策を協議している。 2. 隔月に理事会（小地域ケア会議と兼ねて）を開催、助け合い隊の現状やコーディネーター会議での討議事項について報告するとともに、以後の運営について協議している。 3. 支援依頼について、全件記録している（依頼者名、サポーター名、依頼内容、サポーター料等）。システムのレベルアップには、データを基にした不断の検証が欠かせない。 4. サポーターに年賀状を出状する等、事務局とのコミュニケーションに留意している。サポーターのモラルの維持には、平素のコミュニケーションが大切と考えている。 5. 住民への広報を重視している。「とみやま助け合い隊ニュース」の発行はもとより、学区主要団体の会議などでも極力、議題に取り上げてもらっている。		
協働する団体等	<table border="0"> <tr> <td> 団体名（新規に協働を予定） ・「オレンジカフェ 青春」 ・ケアマネジャー </td> <td> 役割（期待） 支援ニーズ発掘、サポーター発掘 支援ニーズ発掘(介護保険との連携) </td> </tr> </table>	団体名（新規に協働を予定） ・「オレンジカフェ 青春」 ・ケアマネジャー	役割（期待） 支援ニーズ発掘、サポーター発掘 支援ニーズ発掘(介護保険との連携)
団体名（新規に協働を予定） ・「オレンジカフェ 青春」 ・ケアマネジャー	役割（期待） 支援ニーズ発掘、サポーター発掘 支援ニーズ発掘(介護保険との連携)		
事業の情報公開	本システムは、設立の主旨からして地域住民（中でも、支援依頼者、サポーター）への広報が大切と考えている。具体的には、下記を実施している。 1. マグネットシートを全戸に配布（実施済み） → 困った時は、まず電話！ 2. 「とみやま助け合い隊活動ニュース」の発行（年2回を予定、全戸配布） サポートの現状や利用者の声、サポーターの思いを知ってもらい、「気軽に電話！」「気軽にサポート！」の雰囲気を作る。 3. 「とみやま文化まつり（令和3年 中止）でのポスター展示 当隊に対して親近感を持ってもらう。 4. サポーター研修会議（募集説明会を兼ねて）を開催 本システムの主旨や利用状況、サポートに当たって留意すべきこと等、全員が共通認識を持ってもらう。本システムについての口コミによる広報や新規サポーターの紹介（友呼び）を期待している。		
学区地区への広がり	・学区全体を対象に実施		

前年度からの見直し拡充点	1. 前年度の事業成果 ・12月末1年間（1月1日～12月末）の支援実績 サポート受付 284件 （内訳）・草取り、剪定等庭の手入れ31件 ・病院、買い物等の付添 57件 ・買い物代行 58件 ・ゴミ出し 93件 ・資源化物出し3件 ・掃除・片付け 10件 ・修理 2件 ・パソコン指導 15件 ・洋服リフォーム3件、その他 12件（配布、印刷補助、〒投函、電球取り換え等） ・サポーターの増員に苦慮 2. 前年度からの見直し点 ★コロナ対応のため、屋内でのサポートや付添については、自粛（除く、継続案件）せざるを得なかった。 ・サポーター増員 現状47（前期比 -2、新規登録2、辞任-4） → 引き続き、増員を目指す、当面は、サポーターの空白地域の解消を優先したい。 ・サポーターの斡旋に偏りが生じている リピーター依頼者によるサポーターの指名、コーディネート段階で引き受けてくれそうなサポーターに声がけをしやすいなどの実態がある。半面、登録はしているけれど、サポート実績のない者もいる。運営面での課題である。 ・財政の充実 → 特別会員の確保は、難しい。 クラウドファンディングを検討する。 3. 審査会でのコメント（詳細は、別途ご報告します） ①支援依頼者の多様性について たまに、親一人子一人の世帯から「老親（昼間は、独り）のために昼食をつくってほしい」「老親の通院に付き添ってもらいたい」などの依頼があるが、潜在ニーズは、もっと多いはず。逆メニューを提示、ニュースを通じて利用を呼び掛けたい。 ②介護保険とのすみわけ ケアマネジャーとの連携を図るべく、ケアマネさんとの懇談会を計画中です。 ③認知症の方との対応 専門職を講師に招いて、サポーター研修会を開催する予定です。
次年度以降の予定	①次年度以後の活動計画（目標） ・サポーターの拡充 47人（12月末）→ 最終目標 70名体制をめざす。 ・サポーターゼロ地域の解消 ・支援件数 目標 500件 ・多様性の視点を検討する → 支援依頼は、高齢者からがほとんどである。 若年者や、障害者を対象にした支援メニューを開発する。 ②資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☐ （ ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策： 民間助成金を活用する。 クラウドファンディングを活用する。
その他PRしたい点	特になし。

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月7日	・役員会 ・コーディネーター会議
5月	・コーディネーター会議 ・会計監査
6月2日	「とみやま助け合い隊活動ニュース第5号」発行 ・役員会兼総会 ・コーディネーター会議
7月	・コーディネーター会議
8月4日	・役員会 ・コーディネーター会議
9月	・コーディネーター会議 ・サポーター会議
10月6日	・サポーター会議 ・役員会 ・コーディネーター会議
11月	・コーディネーター会議
12月1日	・「とみやま助け合い隊活動ニュース第6号」発行 ・役員会 ・コーディネーター会議
1月	・コーディネーター会議
2月2日	・役員会 ・コーディネーター会議
3月	・コーディネーター会議

収支予算書

収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	86,200	129,400	$165,140 \times 1/2 + 46,860 \approx 129,400$ 円
実施団体負担金	3,174	12,600	
参加者負担金			
協賛金(広告料)	20,000	20,000	
寄附金、他収入			
自治振興会補助	50,000	50,000	
収入合計	159,374	212,000	

支 出

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	19,624	22,700	積算①参照
②食糧費			
③印刷製本費	51,495	67,000	積算②参照
④燃料費			
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費	57,975	53,300	積算③参照
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料	5,000	10,000	積算④参照
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料	12,140	12,140	積算⑤参照
⑮旅費			
小計(①)	146,234	165,140	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費	13,140	46,860	積算⑥参照
小計(②)	13,140	46,860	
支出合計(①+②)	159,374	212,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ・ ○ 希望しない
----------------	----------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。